# 令和8年産 JA米 コシヒカリ湛水直播栽培こよみ(条播、点播)

## ～移植と直播の組み合せで作期分散！機械・施設を有効利用～

あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会

※肥料・農薬名は農協の推奨品目です

作業の後は忘れず正確に記録しましょう

食の安全は栽培記録とGAPの確実な実践から

### 収量構成要素

| 構成要素 | 目標値 |
|---|---|
| 10a当たり収量 | 510kg |
| ㎡当たり穂数 | 390本 (118本/m) |
| 1穂籾数 | 70粒 |
| ㎡当たり粒数 | 27,300粒 |
| 登熟歩合 | 85% |
| 玄米千粒重 | 22.0g |

### 播種量・施肥量の目安

（LPss直播コシヒカリ）

| 土壌区分 | | 施肥量 (kg/10a) |
|---|---|---|
| 沖積 | 砂壌土 | 32～34 |
| | 壌土 | 25～30 |
| | 埴壌土 | 22～25 |
| 洪積 | 赤土 | 25～30 |
| | 黒ボク | 32～34 |

※出穂前の葉色が淡い場合は追加穂肥を行う

| コーティング・播種量（10a当たり） | |
|---|---|
| 乾籾 | 2.5～2.8kg |
| カルパー粉粒剤16 | 等倍量粉衣 |
| タチガレエースM粉剤 | 乾籾重量の3%粉衣 |
| コーティング種子 | 5.8～6.5kg |

田面をやや軟らかくし、確実に覆土
※代かき～播種までの日数の目安
砂壌土2～3日、植壌土3～4日程度

播種後の田干し

適度な播種後の田干し状況
（田面に亀裂が入り渡ったら入水）

### 生育の目安

| 播種時期 | 幼穂形成期 | 出穂期 | 成熟期 |
|---|---|---|---|
| 4/25～5/10 | 7/15～7/19 | 8/6～8/10 | 9/15～9/20 |
| ※移植コシヒカリ 5/15田植え | 7/10頃 | 8/3頃 | 9/10頃 |

### ◇種子処理剤で病害虫防除◇
### カルパー®コーティングにおける種子処理の手順

1. **種籾・器具・薬剤の準備**
   消毒・浸種後種籾、種子コーティング機、種子処理剤、カルパー®粉粒剤、噴霧器、へら
2. **薬剤処理する**
   種子コーティング機に種籾を投入し、薬剤原液を規定量投入し、処理します。
3. **カルパー®剤を投入する**
   カルパー®剤を少しずつ投入します。適宜へらで混ぜ合わせて下さい。
4. **水を噴霧する**
   右上部に余分なカルパー®剤が飛び始めたら水を噴霧します。カルパー®剤の白い縞模様がなくなるまで水を加えます。
5. **カルパー®剤、水を交互に投入**
   カルパー®剤、水を交互に投入していきます。
6. **3分間空運転する**
   すべて投入し、均一な色になったら3分間空運転します。仕上げに少量のカルパー®剤を投入します。

いもち病対策
農薬名:ルーチンシードFS
使用量:6～12mℓ/乾籾1kg

紋枯病対策
農薬名:エバーゴルシードFS
使用量:10mℓ/乾籾1kg

初期害虫対策
農薬名:ヨーバルシードFS
使用量:11mℓ/乾籾1kg

造粒後、コーティング種籾を取り出し、シートの上に広げて20分程度陰干しします。
その後網袋に入れて、風通しの良い室内に床面から離して保存します。

### 栽培管理のポイント

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 水管理 | （播種後、田干しを行う） | 浅水管理（出芽状況を見て芽干しを行う） | 中干し | 間断かん水 | 飽水管理（足跡の水が切れないように管理する） | 出穂から20日間は湛水状態を保つ | 間断かん水（落水を急がないように） |

**種籾の準備**
- ○種子消毒・浸種

5～7日

**芽出しは八ト胸程度**

**ほ場の均平・播種**
- ○種子処理・カルパーコーティングし、陰干し（加温処理又は定温処理）
- ○入水前にほ場の高低差をなくす
- ○播種日に合わせ植代を計画的に実施（代かきは練りすぎない）

2～4日

**播種は4月25日～5月10日**
- ○田面にやや水が残る状態で播種
- ○確実に覆土し、5～10㎜の播種深度を確保

**出芽安定**
- ○播種直後に排水溝を設置し、田干しを促進

5～7日

**確実な田干し、干し過ぎにも注意**

**除草**
- ○除草剤はイネ、ヒエの葉齢に合わせて遅れずに散布

**初期水管理**
- ○浅水管理による分げつ促進
- ○イネ2～3葉期に芽干し（2～3日落水）

**中干し**
- ○田面に亀裂が入り渡ったら速やかに入水
- ○6月上旬に溝掘り
- ○適切な中干しの実施
- ○中干し後の間断かん水を徹底
- （根域が浅いので干し過ぎにも注意）

**穂肥**
- ○幼穂形成期からは飽水管理
- ○出穂7～10日前の葉色が淡ければ追加穂肥
- ○随時防除（穂ばらみ期）

**穂揃期の葉色を4.2～4.5に誘導**

**基本防除**
- 基本防除（穂揃期）
- 基本防除（傾穂期）
- 防除は、7日間隔とし10日以上あけない
- 基本防除（穂揃期）

**登熟期間の水管理**
- ○畦畔、農道等の草刈の徹底

**穂揃期と傾穂期でカメムシ防除を徹底**
- 随時防除（カメムシ常発地・多発時）

**出穂後20日間は、十分な湛水状態を保つ**

**適期刈取**
- ○刈取5～7日前までの間断かん水
- ○籾黄化率85～90%を目安に適期刈取の実施
- （刈遅れによる胴割米の発生防止）
- ○目標仕上げ玄米水分14.5～15.0%

**落水は急がない**

**土づくり**
- ○珪酸質資材・堆肥の施用、秋起こし
- ○1.9㎜のふるい目で丁寧に選別する
- ○雑草・カメムシ対策（畦畔・ひこばえ等）

### 芽出しを揃え、除草効果を高めるために
～カルパー粉衣籾の出芽促進方法～

粉衣後4時間以内に網袋に詰める

①、②いずれか

①加温処理（育苗器使用）
網袋を薄く広げて加温
30℃×18時間

②定温処理（保冷庫使用）
水分低下を防ぐため、厚手のビニール袋に包む　15℃×3～5日

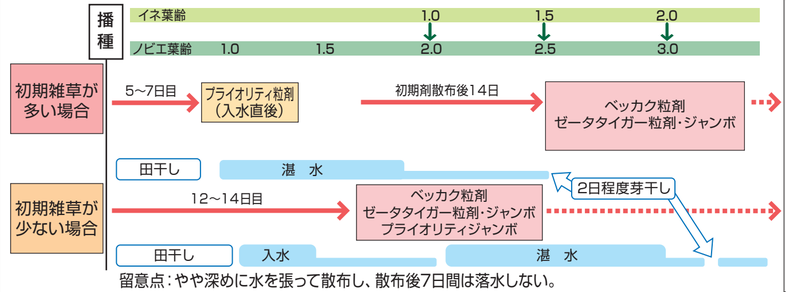
処理後は陰干しし、速やかに播種

※芽の伸び過ぎに注意

温度処理籾の目安

### 除草体系及び病害虫防除

○除草体系と初期水管理




留意点：やや深めに水を張って散布し、散布後7日間は落水しない。

後期剤

【ヒエ、広葉雑草が残った場合】
- レブラス粒剤・ジャンボ
- ウィードコア粒剤
- ロイヤント乳剤
- トドメバス MF 液剤

【広葉雑草が残った場合】
- バサグラン粒剤・液剤

【クサネム・イボクサが残った場合】
- ノミニー液剤

【ヒエが残った場合】
- トドメ MF 粒剤・乳剤
- ヒエクリーン豆つぶ

○病害虫防除体系

| | 対象病害虫 | 時期 | 農薬名 | 散布量 |
|---|---|---|---|---|
| 本田防除 | いもち病 ウンカ類・カメムシ類 | 穂揃期 | ビームスタークル粉剤5DL | 4kg／10a |
| | | | ビームエイトスタークルゾル（1,000倍液） | 150ℓ／10a |
| | ウンカ類・カメムシ類 | 傾穂期 | キラップ粉剤DL | 4kg／10a |
| | | | キラップフロアブル（1,000倍液） | 150ℓ／10a |
| 随時 | 紋枯病・いもち病 稲こうじ・変色米 | 穂ばらみ期 | アミスターエイト（1,000倍液） | 150ℓ／10a |

### 栽培記録

| 区分 | 珪酸質資材・肥料名 | 施用月日 | 施用量 |
|---|---|---|---|
| 土づくり | | 月 日 | kg/10a |
| | | 月 日 | kg/10a |
| 施肥 | 基肥 | 月 日 | kg/10a |
| | 追肥 | 月 日 | kg/10a |

本田管理（作業開始日）
耕起　月　日　代かき　月　日　播種日　月　日
中干し　月　日　落水　月　日　刈取日　月　日

| 区分 | 農薬名 | 散布月日 | 散布量 |
|---|---|---|---|
| 除草 | | 月 日 | kg/10a |
| | | 月 日 | kg/10a |
| | | 月 日 | kg/10a |
| | | 月 日 | kg/10a |
| 種子コーティング | カルパー粉粒剤 16 | 月 日 | kg/ 種子 kg |
| | タチガレエース M 粉剤 | 月 日 | kg/ 種子 kg |

| 区分 | 農薬名 | 処理及び散布月日 | 散布量 |
|---|---|---|---|
| 病害虫防除 | ルーチンシード FS | 月 日 | mℓ /10a |
| | エバーゴルシード FS | 月 日 | mℓ /10a |
| | ヨーバルシード FS | 月 日 | mℓ /10a |
| | | 月 日 | kg/10a |
| | | 月 日 | kg/10a |
| | | 月 日 | kg/10a |
| | | 月 日 | kg/10a |
| | | 月 日 | kg/10a |